ニングラードを訪れた際にそのタイプを再検した。タイプ標本 (Fig. 2) は，花がしなびていて分り難いが，ラベルには ‘Yokohama. 1862’ とあり，鉛筆で花のスケッチや解剖図とメモが書きこまれている。また *‘Lycoris Oldhami* m.’ と学名が書かれているのも面白い。花は小さく，花筒は長さ約 1 cm，花被片は長さ 2-2.5 cm で鈍頭，葯は長さ 4.5 mm である。花が小さいが，キツネノカミソリでも貧弱な咲き初めの個体ではこれ位の大きさの標本も見られるので，やはりキツネノカミソリと判断する。両学名は同時の出版で，ページは *Ungernia Oldhami* の方が早いが，使い馴れた *Lycoris sanguinea* を採用したい。

Lycoris sanguinea Maxim. in Engl., Bot. Jahrb. **6**: 80 (1884).

Ungernia? Oldhami Maxim., l.c. 76 (1884)—Baker, Handb. Amaryll. 39 (1888)—Matsumura, Ind. Pl. Jap. 2(1): 222 (1905)—Traub et Moldenke, Amaryllid. Trib. Amarylleae 164 (1949); syn. nov.

Type of *Ungernia Oldhami*: Japonia, Yokohama (Maxim. 1862, one flowering scape) in LE.

□清水敏一： **大雪山わが山 小泉秀雄** 264 pp. 1982. 清水敏一（私費出版），岩見沢市．¥2,500（送料300）．北海道，大雪山彙には人名を冠した山が多く，間宮岳（間宮林蔵），桂月岳（大町桂月）などがあり，また小泉岳（小泉秀雄）がある。本書の著者は登山家であることから，大雪山学術調査登山の先駆者であり，また山名にも名前が残っている小泉秀雄の経歴や業績に興味をもち，2年余の精力的な調査結果をまとめたものである。本書では，小泉秀雄の生涯，大雪山とのかかわり，山行歴と採集歴などが述べられており，とくに第七章，山岳書のなかの小泉秀雄の項では，山岳書に紹介された小泉の人物像や当時の登山調査の実情が記されていて興味深い。小泉は20万点におよぶ植物標本（蘚苔，地衣を含む）を採集したが，そのコレクションは幸にして科学博物館に現在収められている。本書は登山家としての小泉を紹介したものであるが，その植物標本を利用するに際しても，重要な資料となるであろう。私費出版であるため購入希望の方は〒068 岩見沢市緑が丘5-166の著者に連絡のこと。　（黒川 逍）